



イーレックス株式会社 [9517]

～「未来を切り拓く『共創』エネルギー企業」を目指して～

2017年3月期 決算説明資料

(2017年5月31日)



I	この1年間における大きな変化	・・・ 2
II	中期経営計画 数値計画	・・・ 7
III	本年度の施策	・・・ 11
IV	2017年3月期決算概要	・・・ 24
V	参考資料	・・・ 29

I. この1年間における大きな変化

1. 小売電気事業者の増加

- 小売電気事業者の登録数は、この1年間で270件から約400件に増加している。

2. 新電力シェアの拡大

- 新電力の市場シェアは、2016年4月から12月の8ヶ月間で10.5%→16.2%（高圧）、5.2%→8.6%（全電圧合計）と急激に上昇している。
- 当社の主たる営業エリアにおける2016年12月でのシェアは、九州が13.6%（高圧）、6.1%（全電圧合計）、東京が21.5%（高圧）、12.1%（全電圧合計）と、関西、北海道地区に次いで高いことが確認できる。

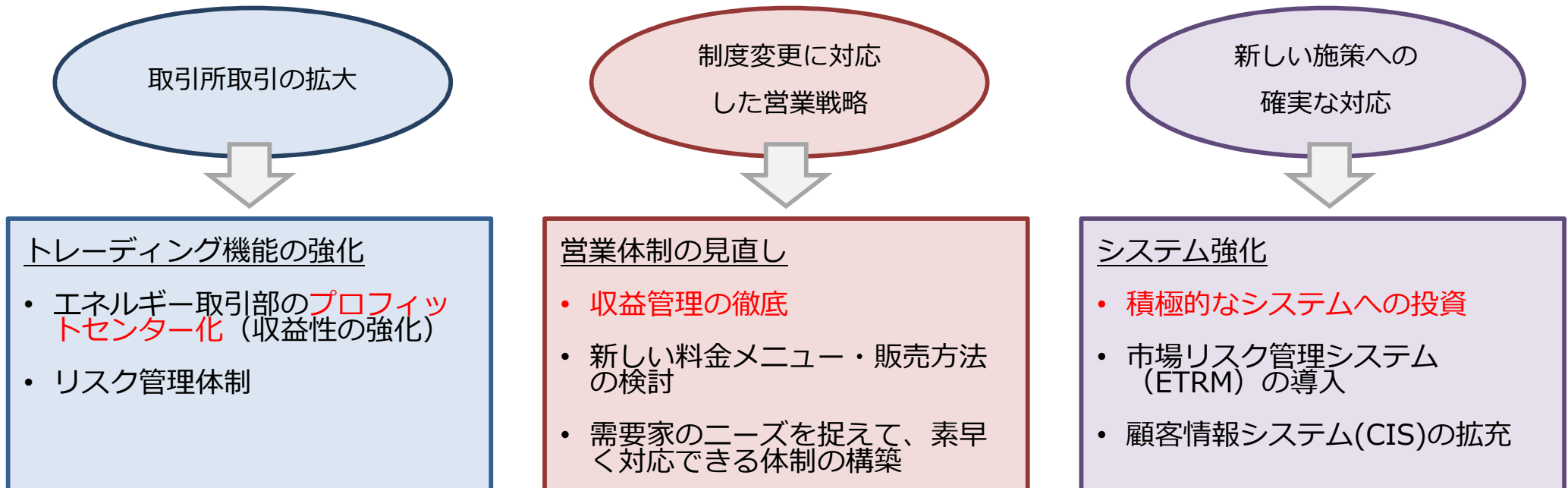
3. 多くの事業者による参入

- 官公庁入札： 入札参加事業者の数の増加、落札価格の低下が顕著である。
(当社は殆ど参加していない)
- 民間営業： 代理店経由で民間営業を実施している中、競合他社の数がこの1年間で増加している。

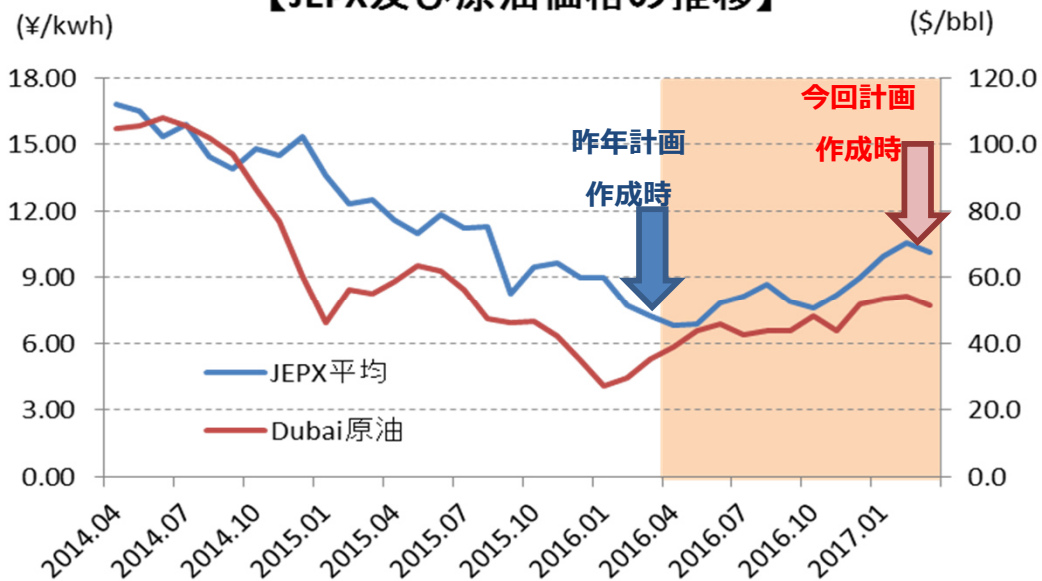
電力システム改革の進捗

- 資源エネルギー庁の貫徹小委員会から制度検討作業部会に移り、電力システム改革の議論は継続中
- 議論を踏まえて各施策が実施されることで卸電力取引所における取引量が大きく増加する見通し
→ 電力自由化の流れは大きく進展・ビジネスチャンスの拡大
- **ベースロード電源市場の創設** → 安価なベース電源へのアクセス・新電力の競争力拡大

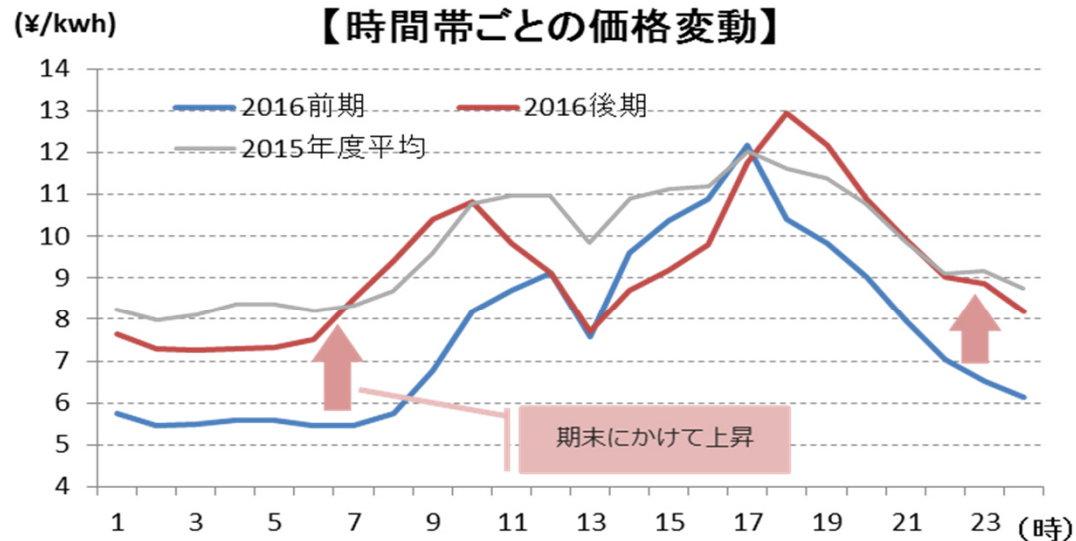
本格自由化の到来に備えた各施策の実施



【JEPX及び原油価格の推移】



【時間帯ごとの価格変動】



1. 各部門の損益分岐点を徹底的に下げる

2. 高圧／低圧の市場細分化を行い

代理店方式に加え、直販体制と販売ルートを強化

3. 再生可能エネルギー電源の拡大と進化を続ける

- 沖縄の具体化とA地点等の計画（収益の更なる確保）
- 燃料部門の上流展開

4. 拡大していく取引所取引の最大限の活用

- トレーディング事業のプロフィットセンター化

Ⅱ. 中期経営計画 数値計画

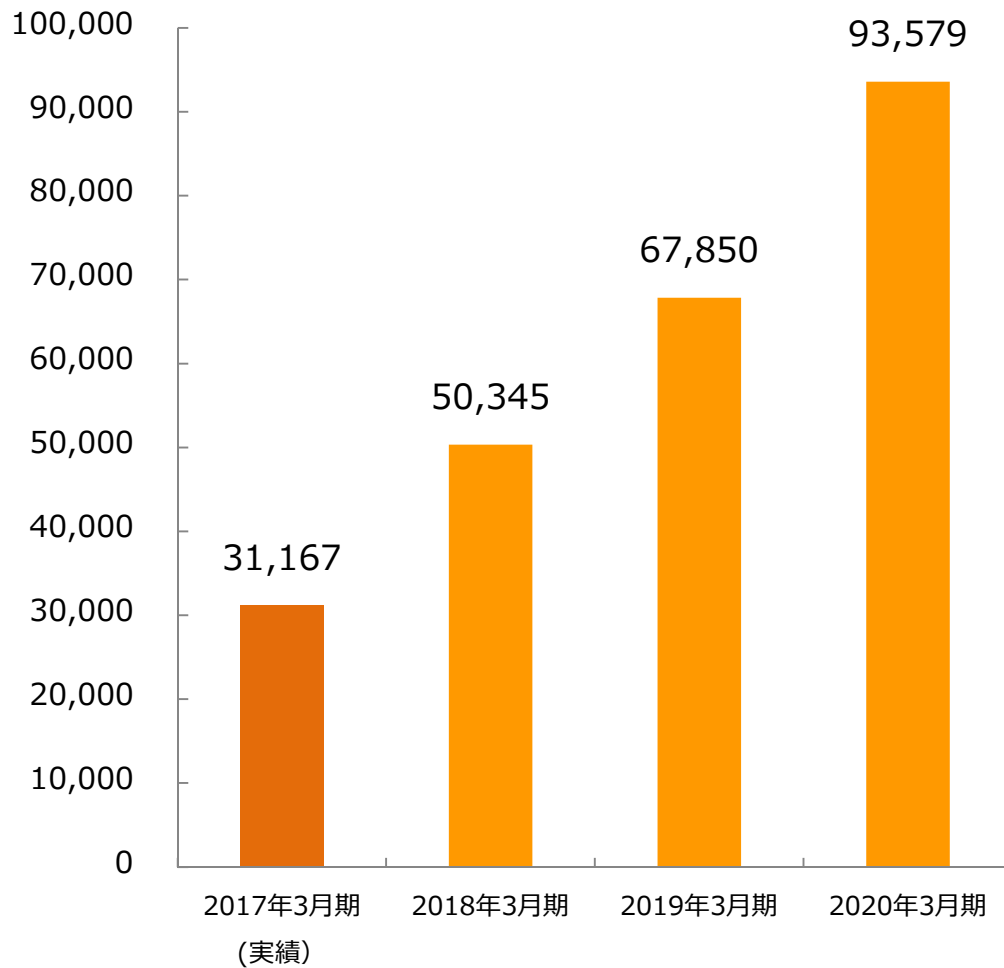
「Dash 1000」

(単位：百万円、下段は売上比)

	2017年3月期実績		2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期	
		前年比		前年比		前年比		前年比
売上高	31,167 (100.0%)	+36.2%	50,345 (100.0%)	+61.5%	67,850 (100.0%)	+34.8%	93,579 (100.0%)	+37.9%
営業利益	3,535 (11.3%)	+105.1%	4,492 (8.9%)	+27.1%	6,661 (9.8%)	+48.3%	10,967 (11.7%)	+64.6%
経常利益	3,219 (10.3%)	+99.4%	4,512 (9.0%)	+40.2%	6,578 (9.7%)	+45.8%	10,792 (11.5%)	+64.0%
当期純利益	1,917 (6.2%)	+72.3%	3,020 (6.0%)	+57.6%	4,047 (6.0%)	+34.0%	6,254 (6.7%)	+54.5%

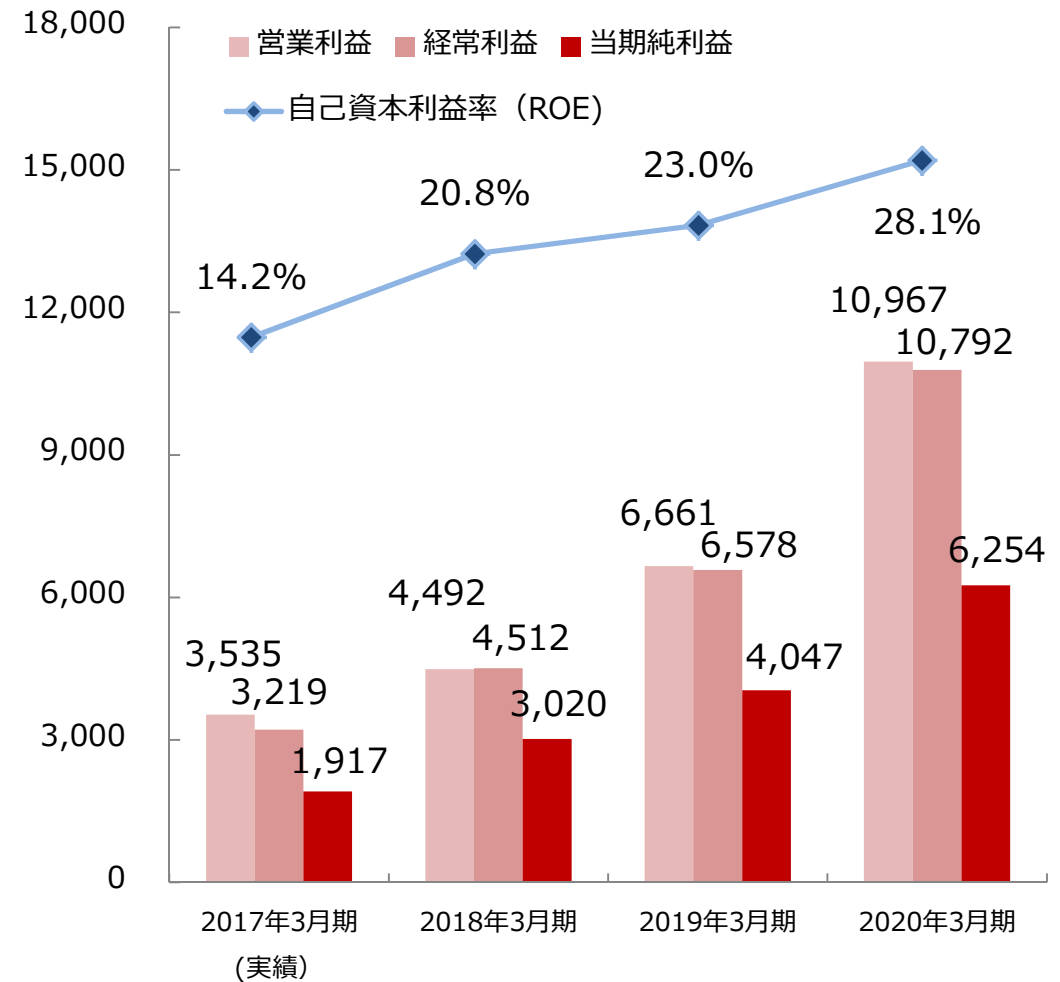
売上高

単位：百万円



利益

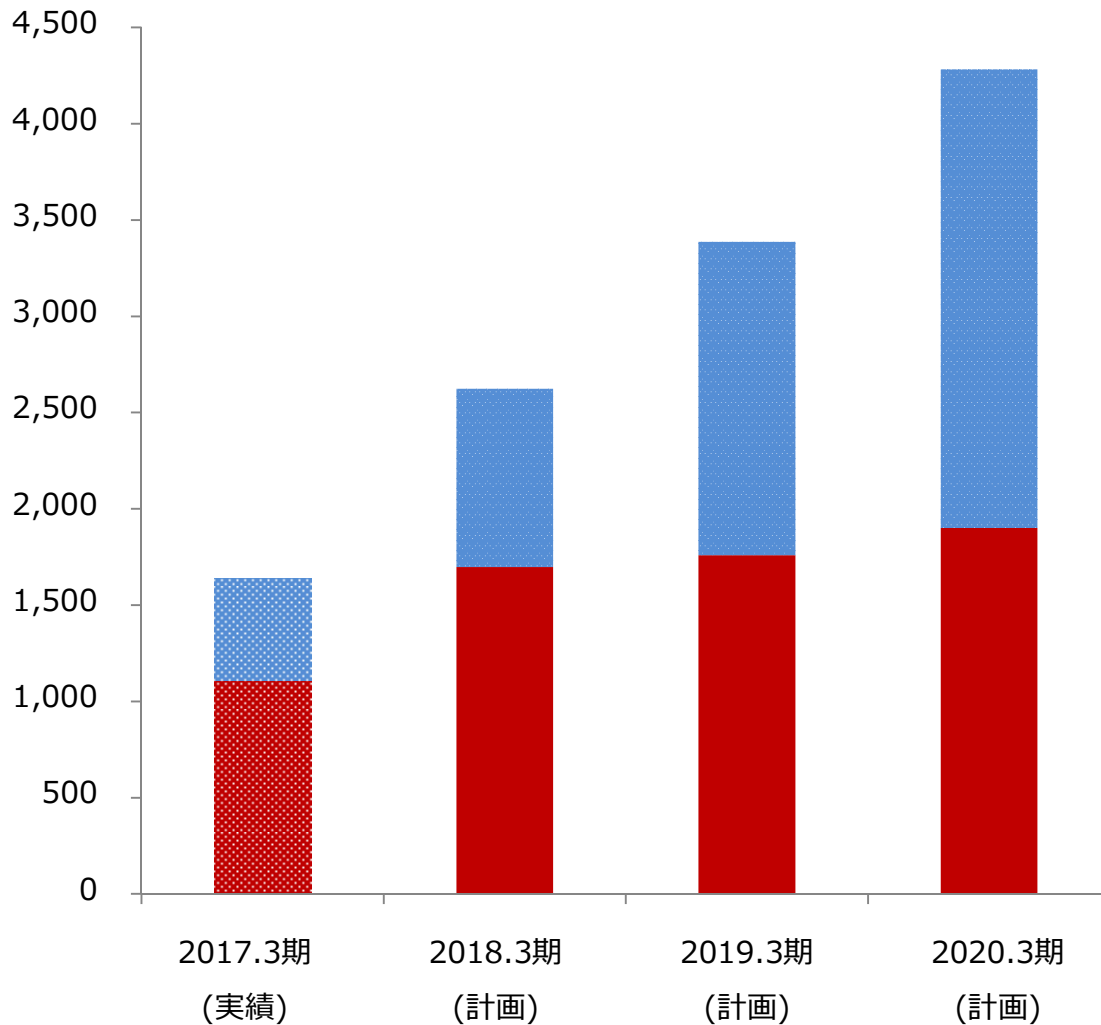
単位：百万円



電源種類別仕入量

単位：GWh/年

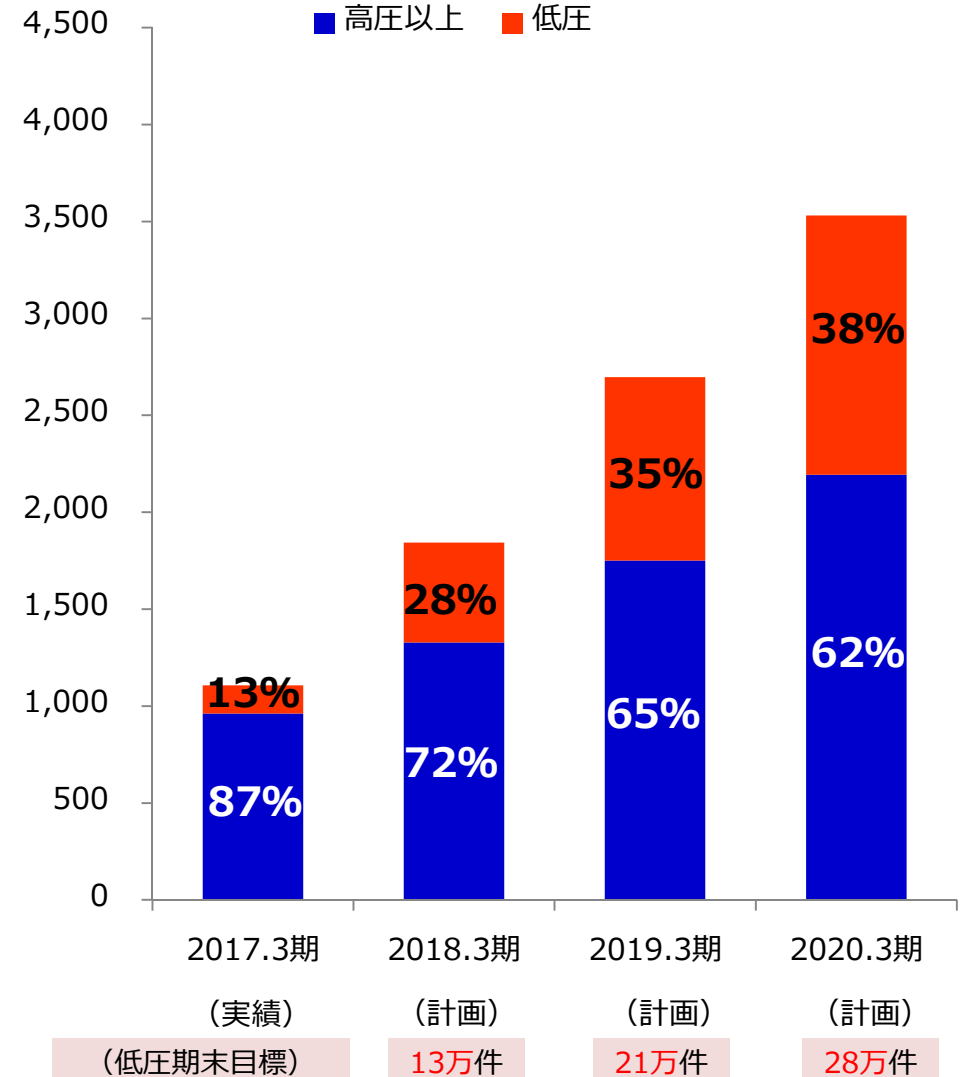
■ 電源仕入 ■ 市場仕入



小売販売電力量

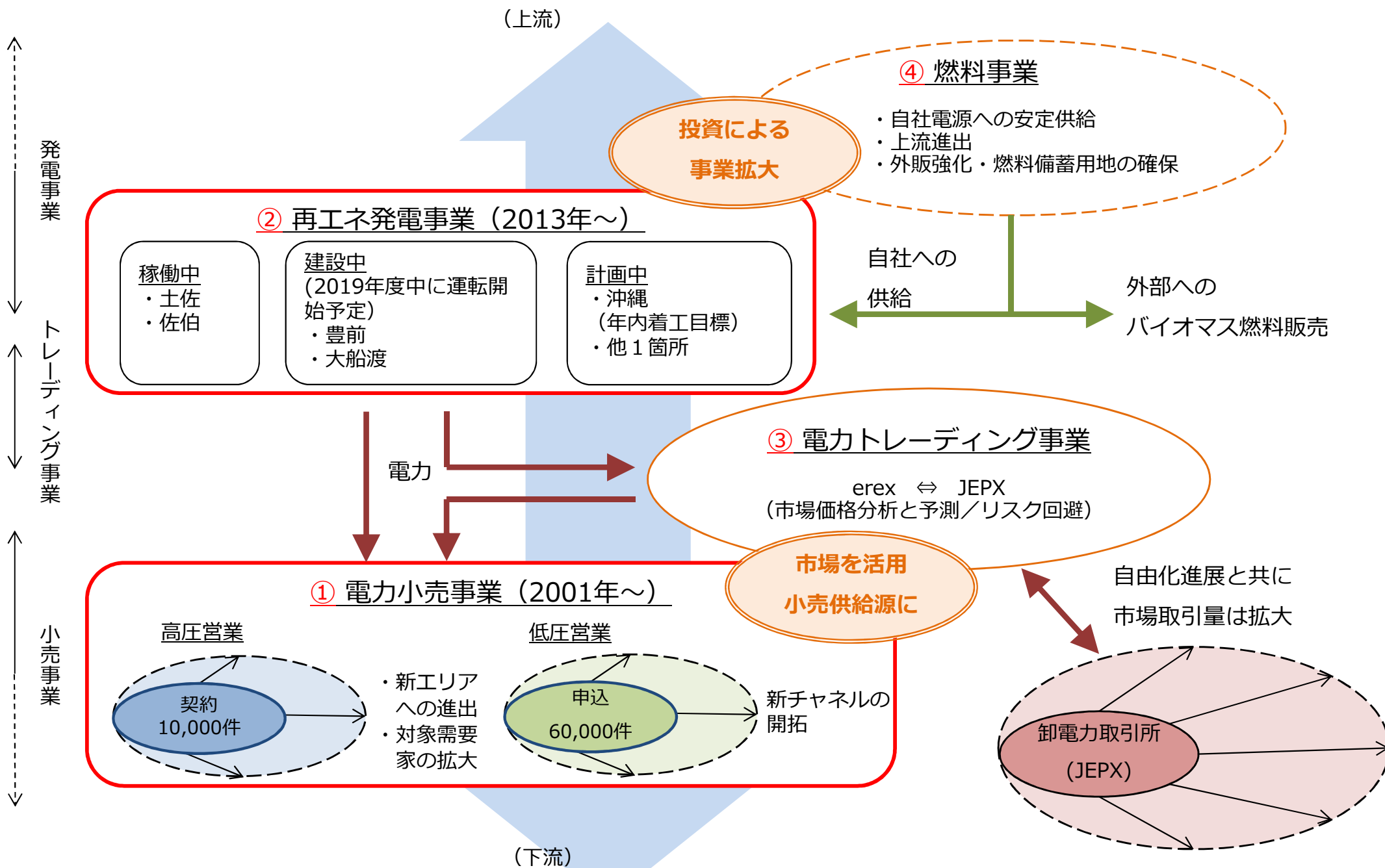
単位：GWh/年

■ 高圧以上 ■ 低圧

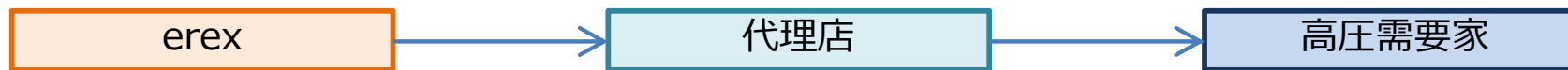


Ⅲ. 本年度の施策

“Core 2” + “New 2” = 4つのプロフィットセンター



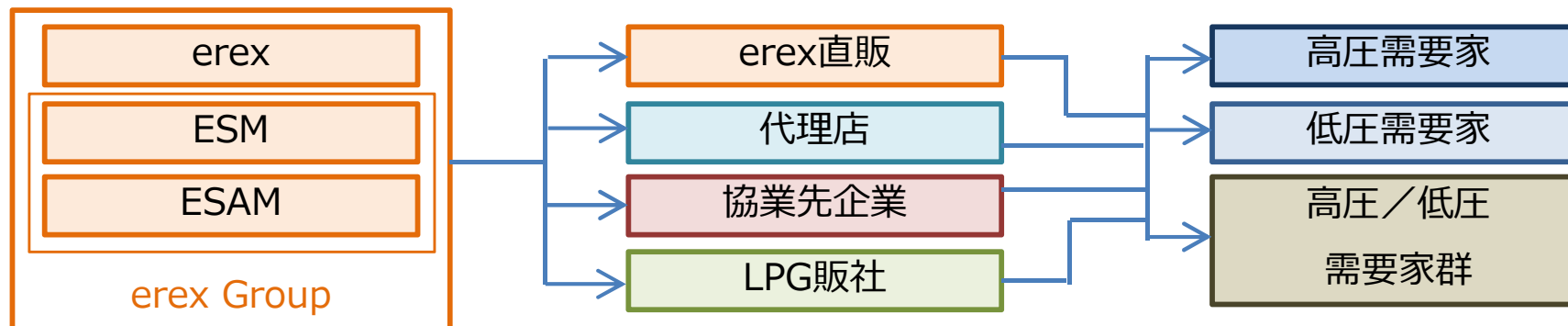
～2015年度：高圧の営業



2016年度：高圧・低圧営業



2017年度：【営業力強化】需要家の多様なニーズに応える体制構築



- 様々な需要家の特性に対応
- 最適な販売ルートによるアプローチ

①直販体制の強化

- 需要家のニーズを直に捉え、変化に対応できる体制作り
- 新しい販売方法への取組み（デマンドレスポンス等）

②グループ体運営による効率化

- 採算管理の徹底と一元化
- バックオフィス体制の充実
- 多様な販売ルートの確保

③新エリア・販売ルート

- 四国エリア（4月より開始）
- 北海道エリア（本年度中に開始目標）
- 新しい販売ルートの実現

営業活動中の販売ルート



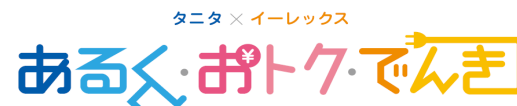
全国1,300件以上の
代理店



全国54社の
LPG会社とのコラボ



沖縄ガスとの合併会
社による沖縄におけ
る電力販売



健康に目を向けた電力



Powered by eREX Spark Marketing

通信会社とのコラボ



Powered by eREX Spark Marketing

全国の歯科医院向け電力

新しい展開：多様な販売ルートの開拓は継続的に実施

地域のケーブルテレビ事業者と
の協業（横展開実施）

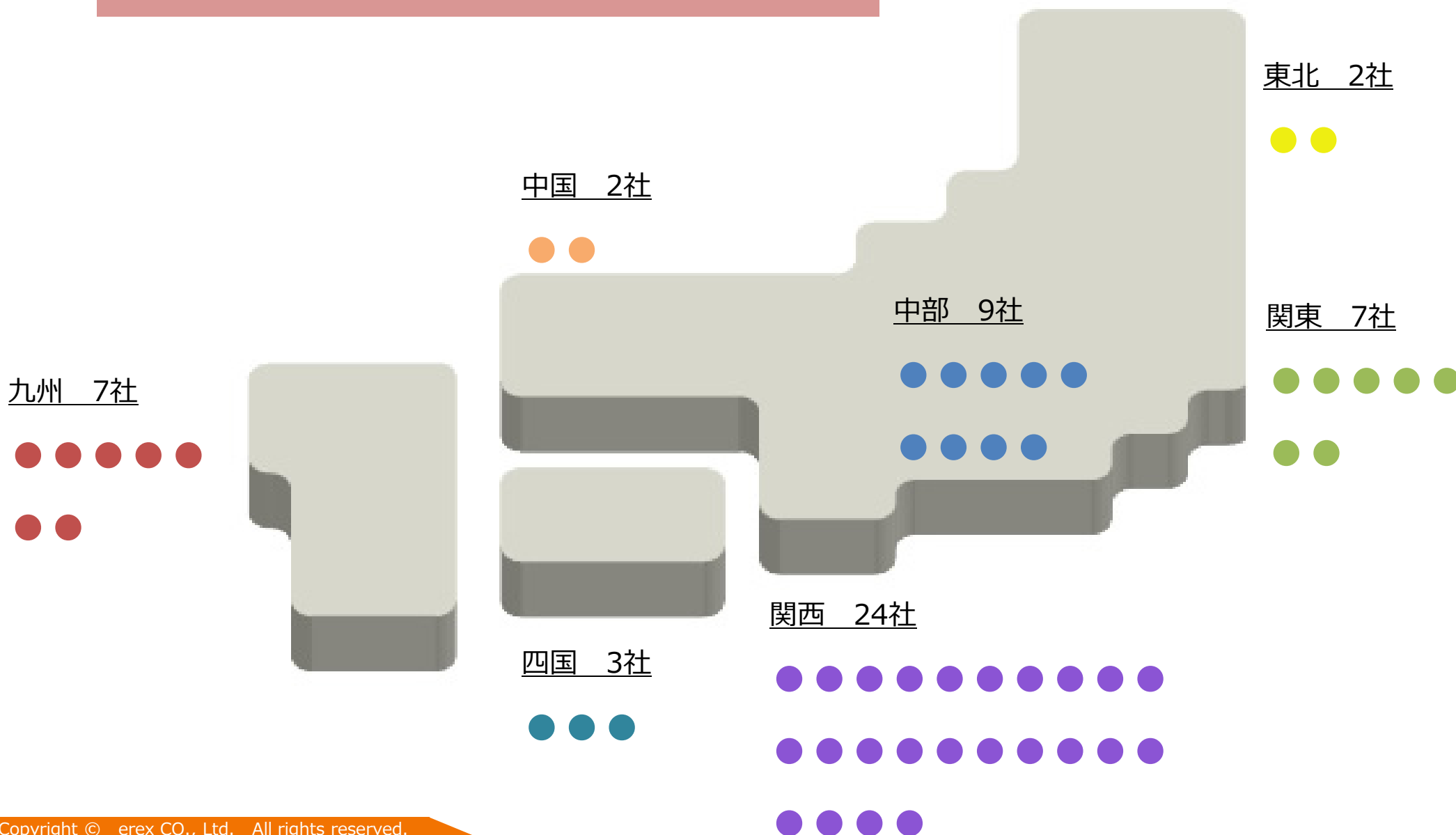
工業用間接資材の
通信販売会社との協業



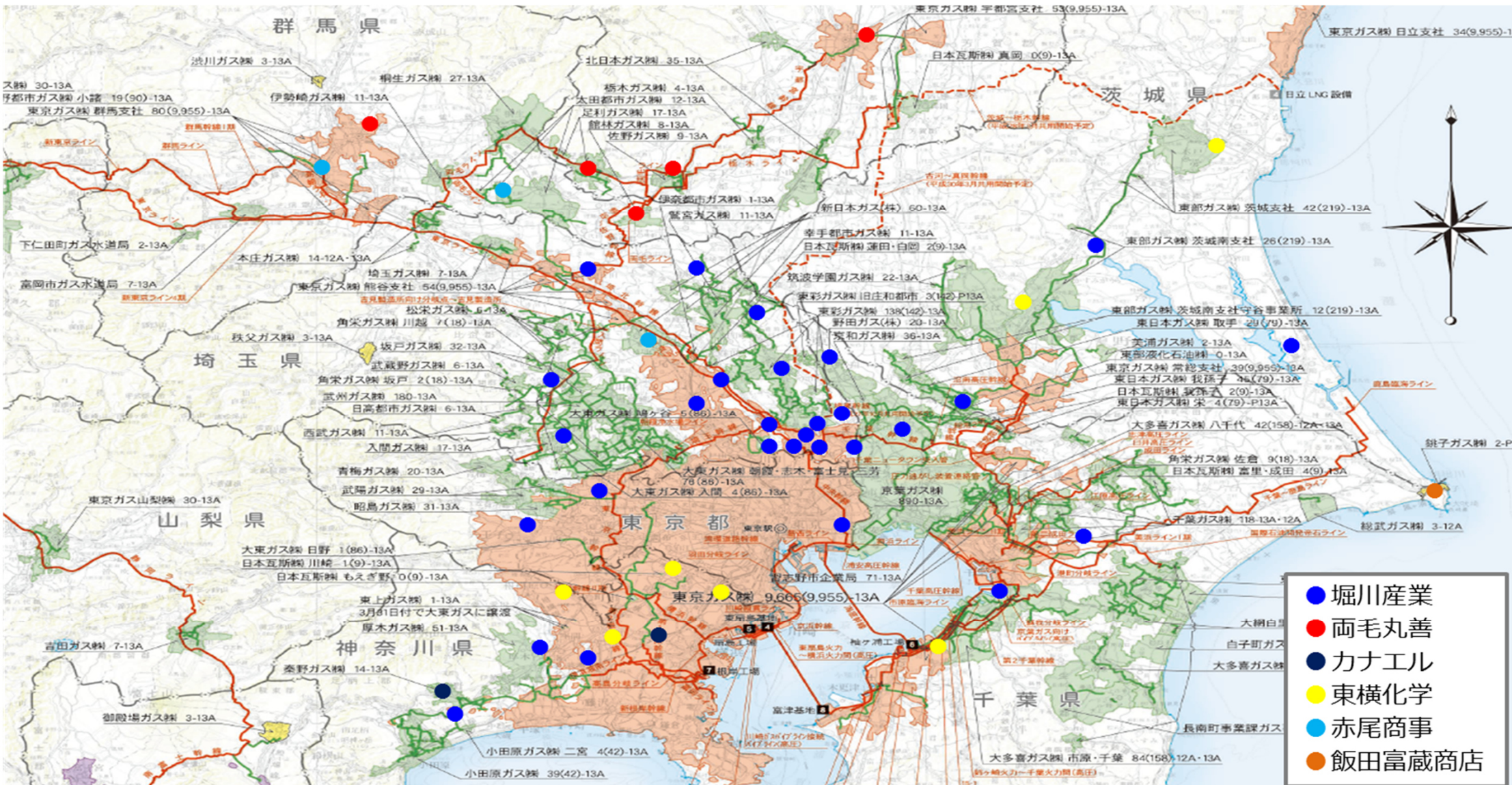
(大分県佐伯市)

(宮崎県延岡市)

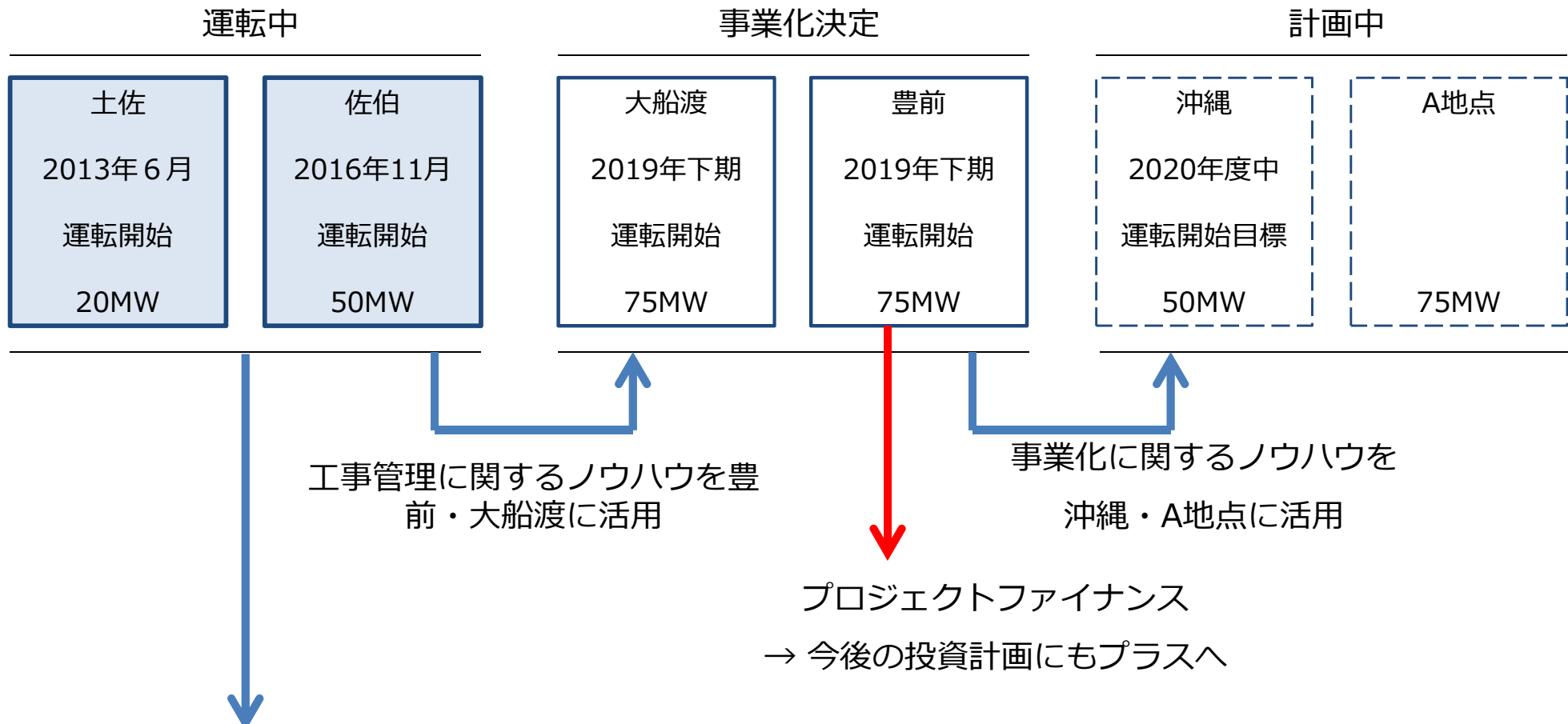
全国54社のLPG・石油系パートナー



本年度の施策 ①電力小売事業 D)関東地区における営業拠点



出所：資源エネルギー庁「一般ガス事業者供給区域エリアマップ」および当社HP公開情報から作成



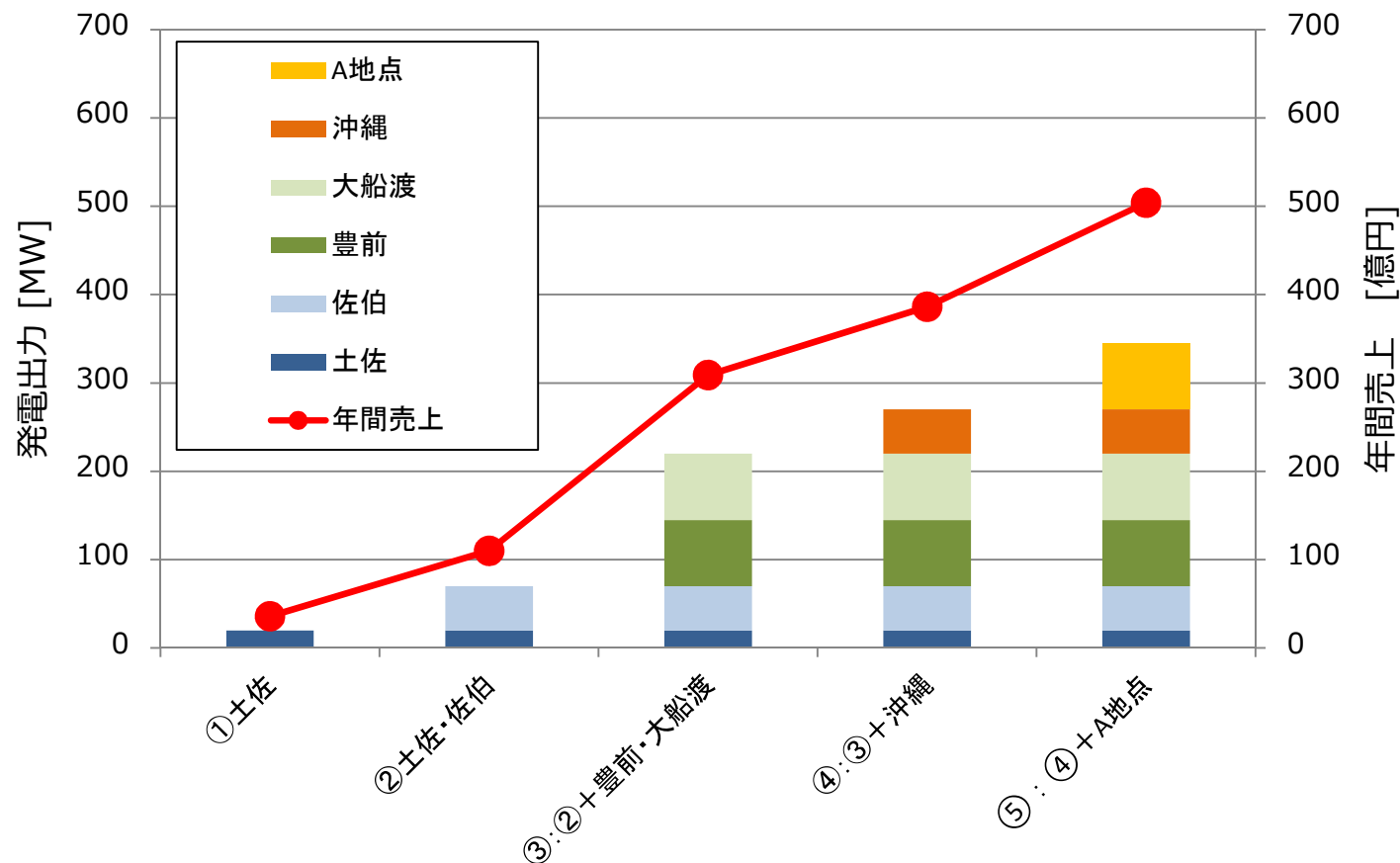
【収益改善策の実行】土佐のノウハウを佐伯に活用

- ◆ 送電端出力の改善
- ◆ バイオマス混焼率の向上
- ◆ 定期修繕期間の短縮

バイオマス発電に関する
 ノウハウを最大限活用
 (事業化から安定運転まで)

	2014年3月期	2017年3月期	2020年3月期		2021年3月期	未定	
	土佐	佐伯	大船渡 (投資決定済)	豊前 (投資決定済)	計画中		
					沖縄	A地点	その他バイオマス 太陽光 風力
発電出力[MW]	20	50	75	75	50	75	↑
発電効率	31%	36%	39%	39%	未定	↑	↑
燃料	PKS	PKS	バイオマス	バイオマス	バイオマス		
投資額 [億円]	35	167	235	250	未定		
当社出資比率	100% (全量eREXへ販売)	70% (全量eREXへ販売)	35% (全量eREXへ販売)	65%	50%超	FS中	FS中
当社出資額[億円]	0.1 (済)	34.3 (済)	14.0	45.0	未定		
ファイナンス方法	コーポレート・ローン	コーポレート・ローン	コーポレート・ローン	プロジェクト・ファイナンス	未定		
備考	2013/6 運開	2016/11 運開	2019下期運開予定 (2017下期着工予定)	2019下期運開予定 (2017/5着工済)	2020年度中 運開目標	↓	↓

発電事業規模と売上の関係 (※1)



※1 :

豊前、大船渡は連結売上増加分を示す。

他は、発電事業会社の売上を示す。

1000億円超え体制の実現

売上高
(億円)

売上高1000億円ライン

【2020年3月期】
期の途中より豊前・大船渡が売上に貢献

豊前・大船渡相当

【2021年3月期】

以下の点が年間通して売上に貢献：

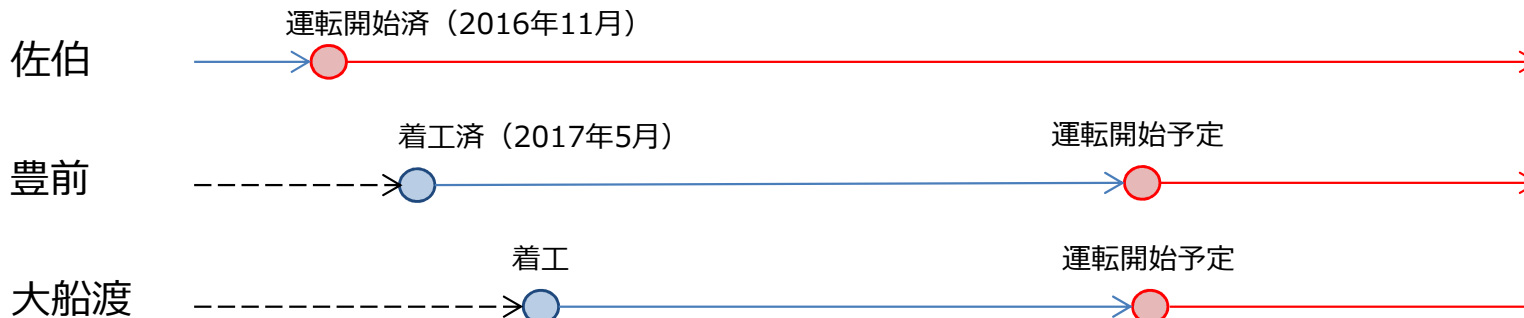
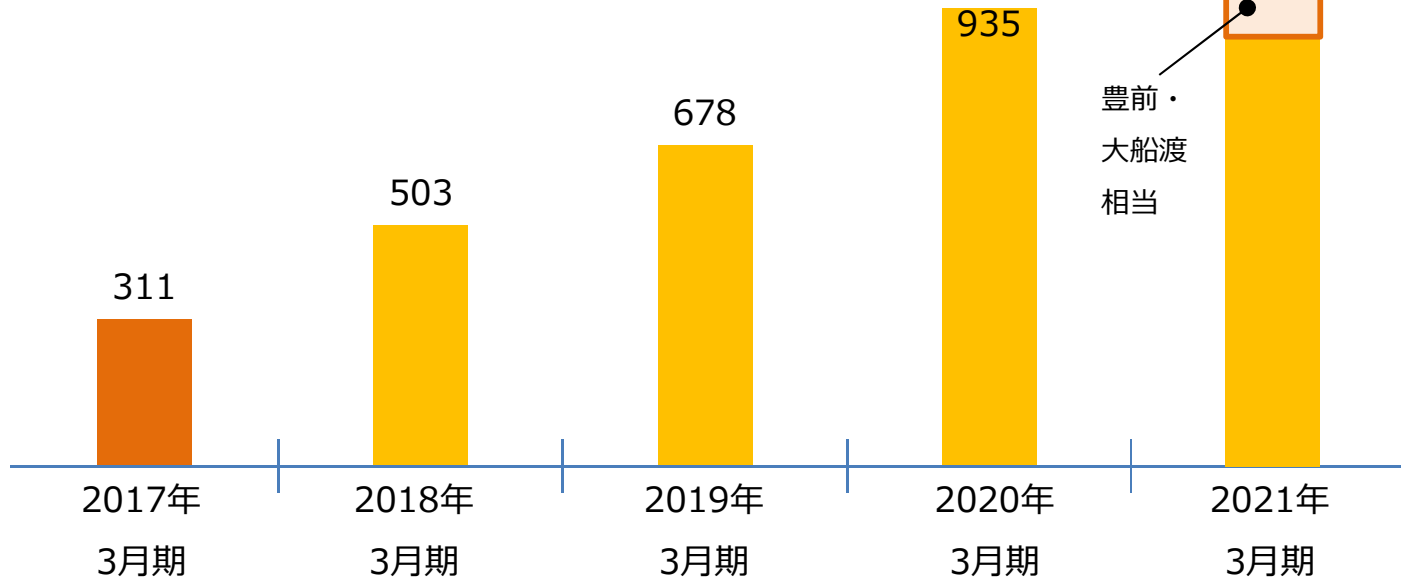
- <豊前>
 - ・発電所からの卸電力販売
- <大船渡>
 - ・発電所からの電力による需要家への販売
 - ・発電所への燃料供給

+

沖縄運開目標

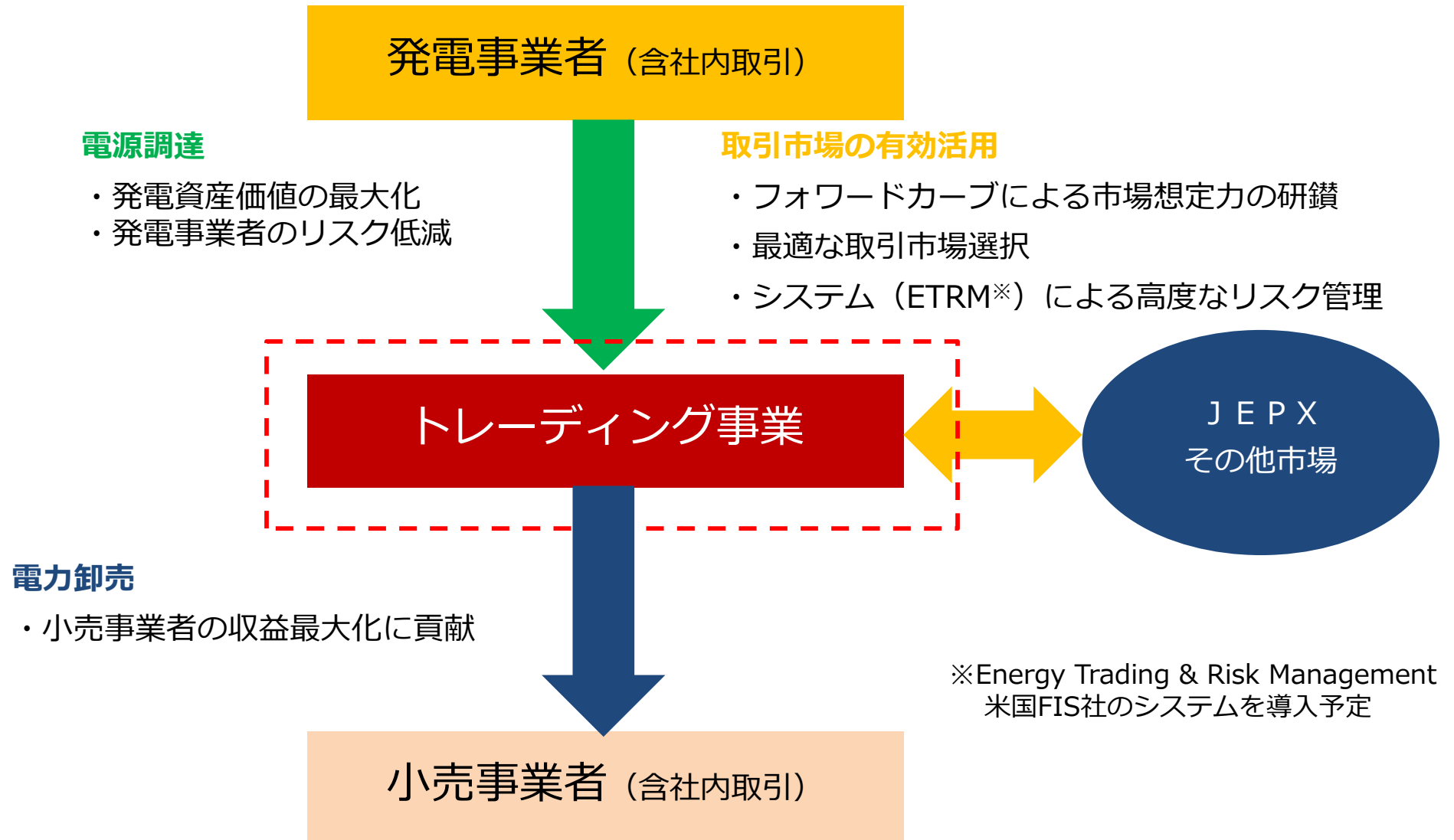


小売事業に加えて発電事業が大きな柱になり、売上1000億円超えを達成

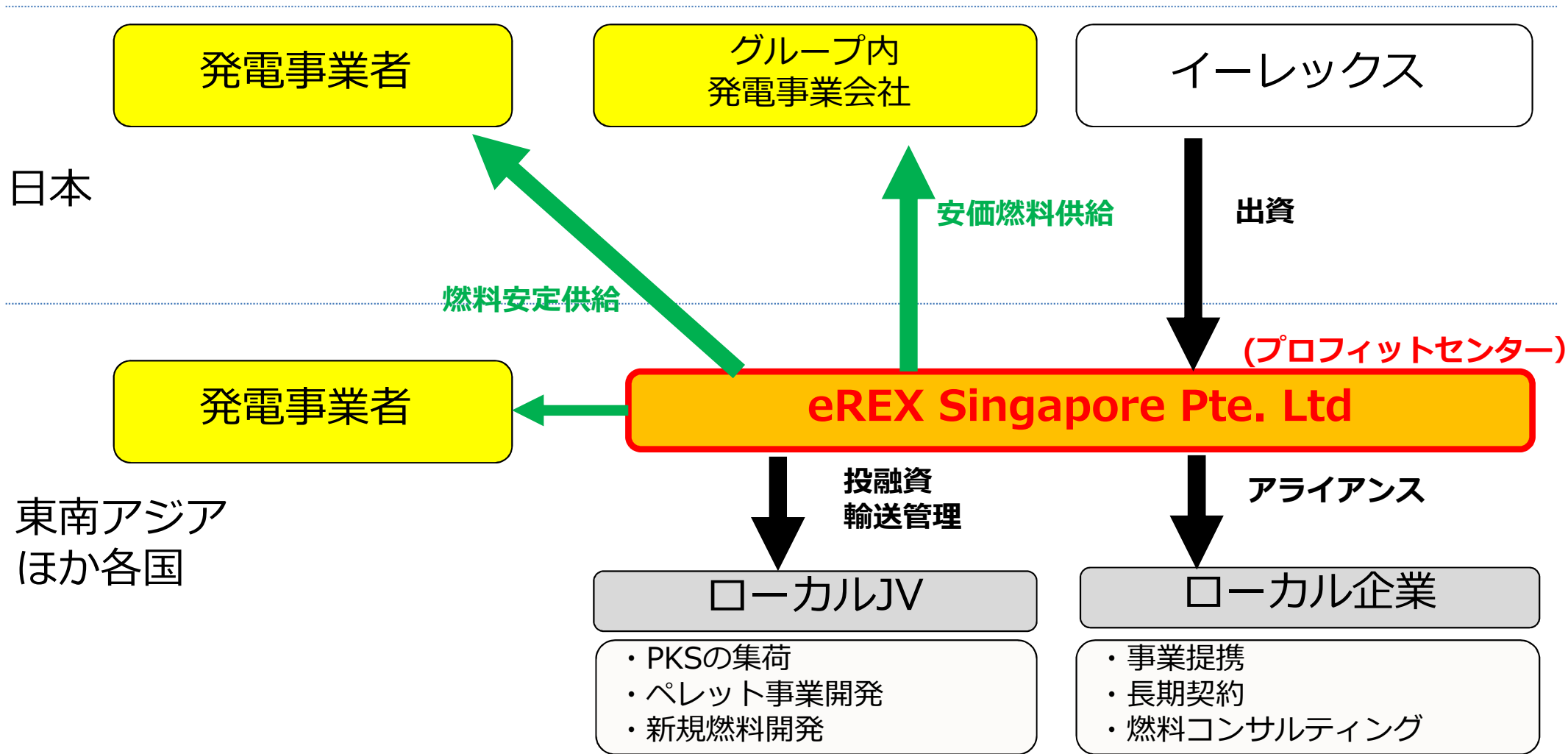


(計画中案件)





プロフィットセンター化を志向すると共に、電力取引市場の制度変更（現物市場、金融市場の整備など）や環境変化（市場分断、再エネ加速など）を踏まえ、長期的視点で事業を展開する



- ・ 安価かつ安定的な燃料の供給、調達リスクのヘッジを目的とした海外事業を展開する
- ・ 「イーレックスシンガポール」を設立、統括拠点としプロフィットセンター化を目指す
- ・ 燃料の外販についても積極的に展開

	強 守	挑 戦
① 小売事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益向上策への取り組み ・ 直販部隊の強化 ・ バックオフィス体制の充実 ・ システム化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい販売ルートの開拓 ・ 将来を見据えた商品設計の検討 (デマンドレスポンス等) ・ ガス事業の検討
② 発電事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【土佐及び佐伯】安全運転と収益改善策の実行 ・ 【豊前及び大船渡】遅滞なき進捗の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【沖縄及びA地点】計画中案件の事業化実現 ・ 再生可能エネルギーの拡大
③ 電力トレーディング	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスク管理体制の構築 (ETRMの導入) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケット取引量の拡大 (プロフィットセンター化)
④ 燃料事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社電源への安定供給 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流への進出 (イーレックスシンガポールの設立、現地での積極投資) ・ 外販の強化 (国内・海外)

IV. 2017年3月期決算概要

2017年3月期 総括

売上高 **31,167 百万円** (前期比 36.2%増)

営業利益 **3,535百万円** (前期比 105.1%増)

- 高圧分野：既存顧客離脱による伸長鈍化(約8,000施設 [期初] →約10,300施設)
 - 低圧分野：初年度として順調に伸長(0施設 [期初] →約48,000施設)
 - 佐伯発電所：商業運転開始後、順調な進捗により**初年度経常黒字達成**
 - 土佐発電所：操業は従前同様、計画通りに進捗 (継続した利益貢献)
- ◆ **営業利益の期初計画比進捗率は132.7%** (2月14日開示修正業績予想比進捗率は94.1%)

連結損益計算書の概要



(単位：百万円、下段は構成比)

	2016年3月期 (前期実績)	2017年3月期 (当期実績)		
		実績	増減率	備考
			期初計画比 通期進捗率	
売上高	22,877 (100.0%)	31,167 (100.0%)	+36.2% 93.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・高圧部門の販売数量が前年同期比で+20%超となり大幅増収に貢献 ・低圧部門は計画通りに進捗し、増収に貢献 ・卸売上は取引所価格の下落により減収
営業利益	1,723 (7.5%)	3,535 (11.3%)	+105.1% 132.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・小売販売量の増加に伴う託送費の増加、価格の下がった卸電力取引所からの仕入の増加となったものの、高単価仕入先からの仕入量を見直し、原価の抑制が寄与。 ・ENE佐伯発電所の商業運転開始に伴い製造原価が+200 ・小売販売量の増加に伴い代理店報酬が+300、従業員の増加に伴い人件費が+290、小売拡販のため販売促進費・広告宣伝費が+230
経常利益	1,614 (7.1%)	3,219 (10.3%)	+99.4% 131.3%	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,112 (4.9%)	1,917 (6.2%)	+72.3% 134.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ENE佐伯の資産除去債務の計上により、税金費用が増加

貸借対照表の概要



(単位：百万円、下段は構成比)

		2016年 3月期末	2017年3月期末		
			実績	増減額	主な増減要因
資産	流動資産	13,406 (49.3%)	14,843 (34.9%)	+1,437	・売掛金の増加+1,453、未収金+1,922（再エネ交付金） 現金及び預金▲3,552、原材料等+162、その他+1,450
	固定資産	13,759 (50.6%)	27,605 (65.0%)	+13,846	・ENE佐伯/豊前ニューエナジー等発電子会社による有形/無形固定資産 の増加+12,124、大船渡発電株式会社の株式取得等+1,395、 その他+331
	繰延資産	36 (0.1%)	25 (0.1%)	▲11	・子会社設立、増資に伴う株式交付費の償却の進展
資産合計		27,202 (100.0%)	42,473 (100.0%)	+15,271	—
負債	流動負債	3,096 (11.4%)	9,034 (21.3%)	+5,938	・短期借入金+3,300、1年以内返済予定の長期借入金+992、 買掛金+553、未払法人税等+339、その他+752
	固定負債	9,373 (34.5%)	17,520 (41.2%)	+8,146	・長期借入金+3,380、ENE佐伯発電所等の資産除去債務+1,965 デリバティブ債務+2,163、繰延税金負債+553、その他+103
負債合計		12,469 (45.8%)	26,555 (62.5%)	+14,085	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 原材料仕入の為の為替予約実施 </div>
純資産合計		14,732 (54.2%)	15,918 (37.5%)	+1,186	・新株予約権権利行使による資本金/資本剰余金+392、 利益剰余金+1,510、自己株式▲226、繰延ヘッジ損益▲2,163 非支配株主持分+1,674
負債・純資産合計		27,202 (100.0%)	42,473 (100.0%)	+15,271	—

単位:百万円

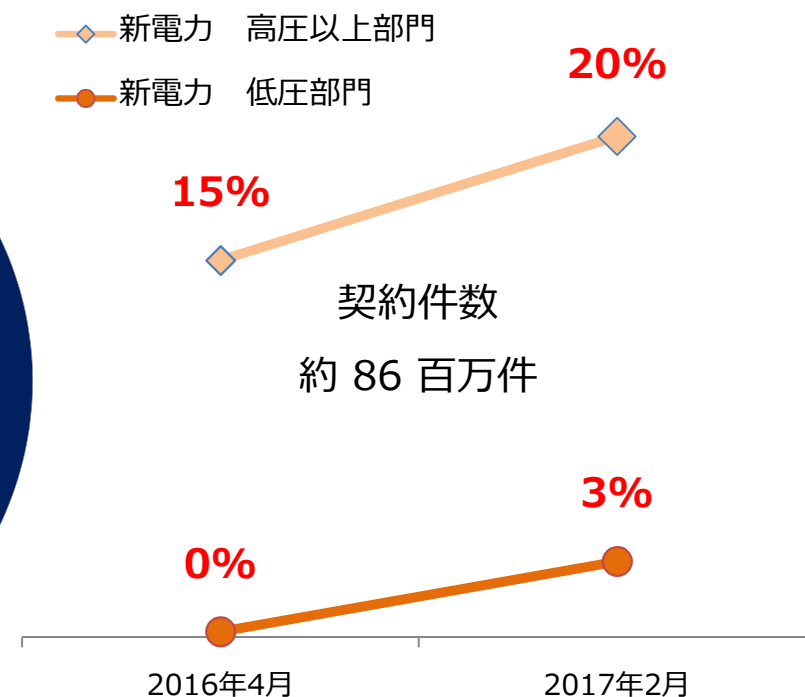
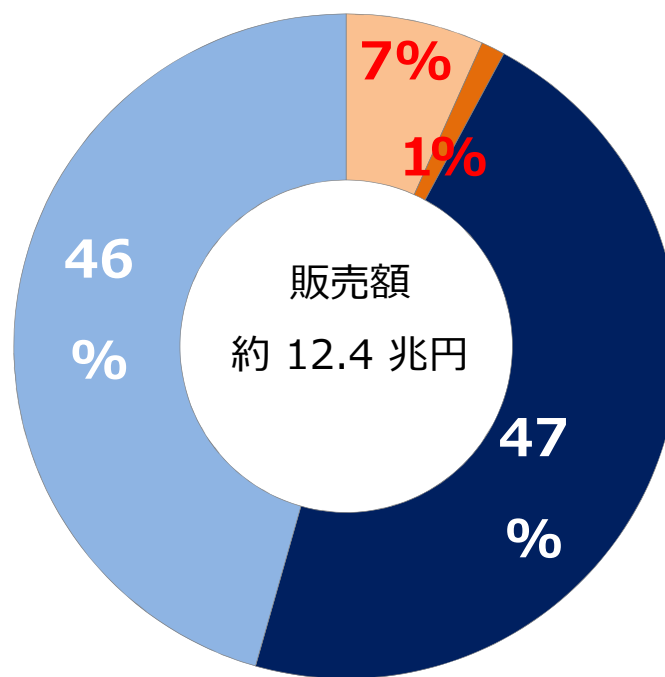
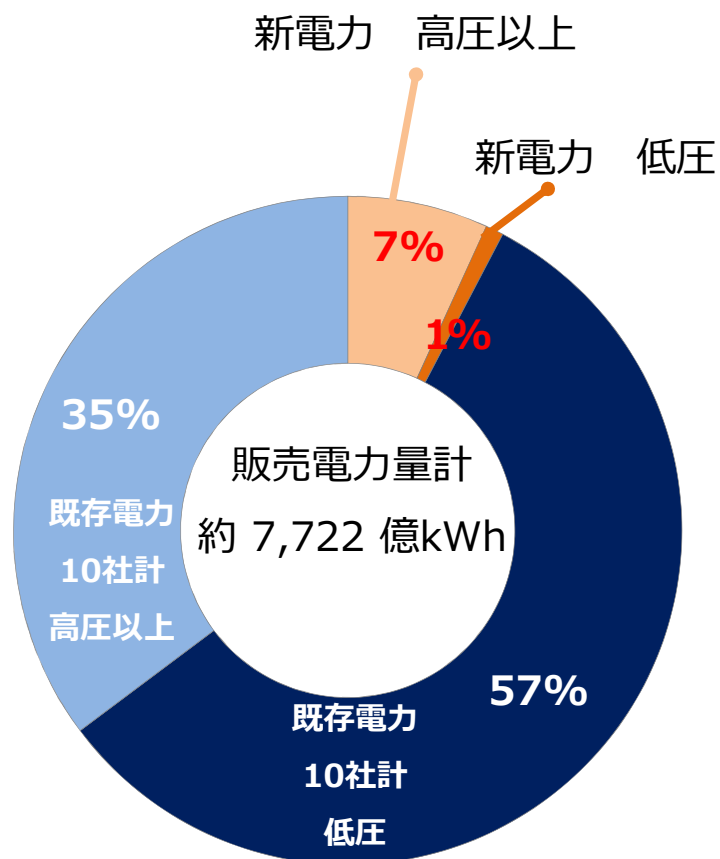
	2017年3月期		
	修正後 業績予想*1	実績	増減額
売上高	31,548 (100.0%)	31,167 (100.0%)	▲380
営業利益	3,758 (11.9%)	3,535 (11.3%)	▲222
経常利益	3,457 (11.0%)	3,219 (10.3%)	▲238
当期純利益	2,000 (6.3%)	1,917 (6.2%)	▲83

【乖離の要因】

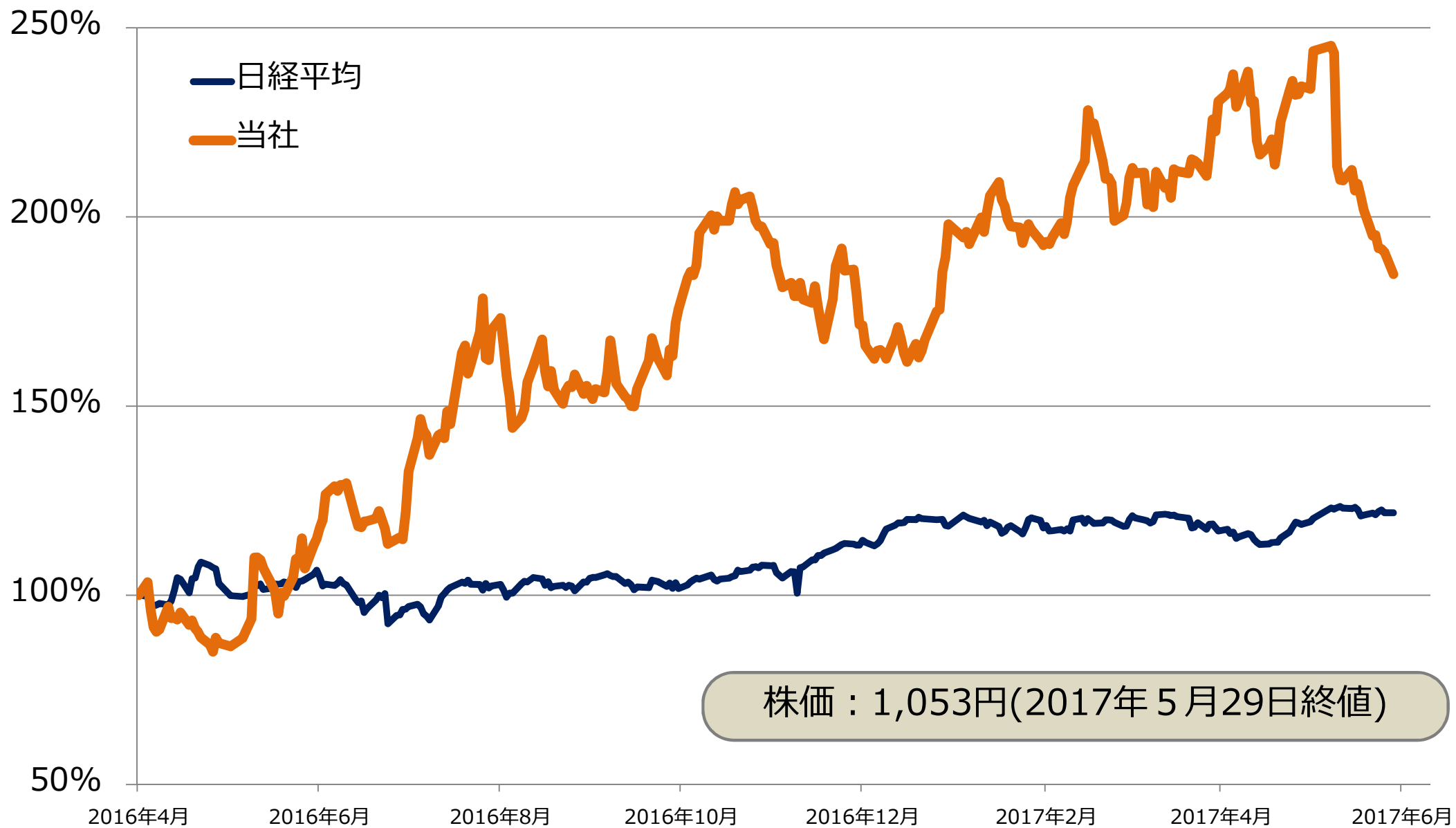
- ・ 他新電力の営業攻勢が特に西日本で活発化した事により、新規顧客の獲得は順調であったものの、既存顧客の離脱により契約件数の伸びが鈍化
- ・ 原価/販売管理費の抑制をしたものの、売上高の減少を補えず、営業利益では220百万円の未達となった
⇒ 競争環境の大きな変化を踏まえ、対抗策を織り込んだ中期経営計画の数値見直しを実施

*1 平成29年2月14日開示【業績予想の修正に関するお知らせ】

V. 参考資料



- 新電力が開拓したシェアは販売電力量比・販売額比ともに約8%であり、**依然未開拓の大きな市場**が存在
- 2016年4月の低圧自由化解放により**高圧以上部門の契約件数も増えている**
- 2016年3月期の既存電力10社の小売売上高合計は約16兆円
- 当社『Dash 1000』で目標とする**売上高1,000億円は電力小売市場全体の0.6%に相当**



※ 平成28年4月1日終値（当社：569.67円[分割調整後換算]、日経平均：16,164.16円）を100%として

本社	東京都中央区日本橋本石町三丁目3番14号	
事業内容	電気事業(発電・電力小売・電力卸売)	
代表者	代表取締役会長 渡邊 博、代表取締役社長 本名 均	
設立	1999年12月	
資本金	5,139百万円 (2017年3月31日現在)	
連結子会社 (計9社)	販売子会社 (計4社)	イーレックス・スパーク・マーケティング株式会社 イーレックス・スパーク・エリアマーケティング株式会社 株式会社沖縄ガスニューパワー イーレックス販売3号株式会社
	発電子会社等 (計5社)	イーレックスニューエナジー株式会社 イーレックスニューエナジー佐伯株式会社 佐伯バイオマスセンター株式会社 豊前ニューエナジー合同会社 豊前バイオマスセンター株式会社
持分法適用会社 (1社)	発電関連	大船渡発電株式会社

